

## 研究ノート

# 斎藤喜博をめぐる文献リスト作成と主要文献解題

久保田 武

---

この研究ノートは四つの内容からなる。最初は数多くの先人たちが研究対象として取り上げてきた斎藤喜博。その文献リストを、あえて私が今作る目的とねらいである。二番目は紙面が許す範囲でその目的に沿った文献リスト一覧である。なおその際分類の基準として、課題別ではなく著者、編者を中心にしてある。課題別の文献リストもできるだけ早く作成する予定である。三番目は特にこれから斎藤喜博を学ぼうとする人々のための主要文献解題である。そして最後に私のゼミで始めて斎藤喜博を知った教職を志す学生たちのレポートからの抜粋を紹介する。なお斎藤の業績に対する著者の見解は、長くなりすぎることもあり別稿に譲ることとする。

**キーワード：** 斎藤喜博、文献リスト、島小学校、伊勢崎市境島村

---

## 1. 文献リスト作成の目的とねらい

戦後の教育界に大きな足跡を残した斎藤喜博(1911～81、以下斎藤と呼ぶ)が逝去し今年で27年になる。彼が残した膨大な著書も今や全て絶版になった<sup>1)</sup>。若い教師や教師の卵の殆どは彼の名前から聞いたことがない。政治や行政そして教師と教員養成関係者は、子供をめぐる諸問題の対症療法や流行に追われ、斎藤を始めとする優れた先人たちが残した不易<sup>2)</sup>を省みるゆとりがないように思われる。これでは根本的な解決にならず常に問題の後を追いかけて当面お茶を濁して終わる。教育学でも自然科学同様成果の積み上げは可能な限りあった方がよい。実践を踏まえない観念論と古めかしいイデオロギーに固執する教育学であるならば、教育現場にとって存在理由は乏しい。そこで私は、主として若い教育関係者及び教職志望者が斎藤を学ぶ便宜を図る目的で、執筆者別の文献リスト作成を考えたしだいである。

次の目的とねらいは、これまでの優れた先学たち<sup>3)</sup>の斎藤研究は教授法と授業実践が多かったように思われる。そこで私は、彼の活躍舞台となった地域の風土・歴史と人物、彼の影響を受けた人々の実践、それも授業実践だけでなく学校経営他についても従前以上に文献を分類整理し提示することにした。中でも島小、境小、玉村小と群馬県伊勢崎市境島村、玉村町など斎藤の生活舞台となった地域社会の文献と、斎藤から直接間接影響を受けた人々の中から後継者や「ミニ斎藤」、「ネオ斎藤」に成長した人々の実践研究記録となる文献も選んで掲載し、斎藤の影響力の大きさを知る一助

にした。

三番目の目的とねらいは、斎藤に関連する文献はあまりにも多く<sup>4)</sup>、これから読んでみたいという若い教育関係者や学生は、知的探検の入口で戸惑ってしまう。そこで前述のように分類提示するとともに、入門書として適当と考えた文献を選んで簡潔に紹介することにした。

## 2. 斎藤喜博関連文献リスト

### (1) 斎藤喜博本人の著書・編著・共著等の単行本（無印は著書・編は編著・共は共著）

「斎藤喜博全集 第1期 全18巻」国土社 1969～71

- 1 「教室愛・教室記」1969
  - 2 「「ゆずの花」とその背景・童子抄・続童子抄」1970
  - 3 「授業以前・心の窓を開いて」1970
  - 4 「授業入門・未来誕生」1970
  - 5 「教育の演出・授業」1970
  - 6 「授業の展開・教育学のすすめ」1970
  - 7 「私の教育論・教育現場ノート」1970
  - 8 「一つの教育論・現代教育批判」1970
  - 9 「教師の実践とは何か」1970
  - 10 「教師の自由と責任」1970
  - 11 「小さい歴史・学校づくりの記・島小物語」1970
  - 12 「少年のころの記憶・可能性に生きる」1971
  - 13 「授業研究」1971
  - 14 「川ぞいの村・子どもへの物語・君の可能性・詩群」1971
  - 15-1 「表現と自由・短歌をめぐって」1971
  - 15-2 「歌集・年譜」1971
- 別巻1 「未来につながる学力・島小の授業」1970  
別巻2 「教育と人間・日本の教育を考える・教育の実践と創造」1971

「斎藤喜博全集 第2期 全12巻」国土社 1983～84

- 1 「授業と教材解釈・授業の可能性他」1983
- 2 「授業を作る仕事・教師の仕事と技術他」1984
- 3 「授業の解釈と批評・授業小言他」1984
- 4 「私の授業Ⅰ」1983
- 5 「私の授業Ⅱ」1983
- 6 「私の授業Ⅲ」1984
- 7 「斎藤喜博の仕事・宿場裏からⅠ」1984
- 8 「宿場裏からⅡ」1984
- 9 「宿場裏からⅢ」1984
- 10 「宿場裏からⅣ」1984
- 11 「人と自然と・玉村通信他」1984
- 12 「草と木と人間と・詩群・短歌選評・年譜」1984

「斎藤喜博著作集 全8巻」麦書房 1962～64

- 1 「教室愛・教室記」1962

- 2 「童子抄・続童子抄・川ぞいの村・詩群・子どもへの物語」1962
- 3 「授業以前・心の窓を開いて」1963
- 4 「授業入門・未来誕生・私の教師論」1963
- 5 「授業・授業の展開」1964
- 6 「歌集・歌論集」1962
- 7 「教育の演出・随想」1963
- 8 「小さい歴史・学校づくりの記・島小物語」1984

- 「教室愛」三崎書房 1941  
 「ゆずの花」文録社 1942  
 「教室記」鮎書房 1943  
 「童子抄」古今書房 1946  
 「続童子抄」柏書房 1950  
 「第一歌集『羊歯』」草木社 1951  
 「第二歌集『証』」草木社 1953  
 「未来につながる学力」麦書房 1958  
 「学校づくりの記」国土社 1958 (1990 再版 国土社)  
 「写真集 未来誕生」文・斎藤喜博 撮影・川島浩 麦書房 1960、復刻版 一茎書房 1989  
 「表現と人生」国土社 1960  
 「授業入門」国土社 1960(1990, 2006 再版 国土社)  
 「第三歌集『職場』」白玉書房 1961 「授業以前」麦書房 1961  
 「島小の授業」編 島小職員他 3 名 麦書房 1962  
 「校長の指導性」明治図書 1962  
 「授業」国土社 1963(1990, 2006 再版 国土社)  
 「授業の創造」編 明治図書 1963  
 「島小の女教師」編 斎藤他島小職員 6 名 明治図書 1963  
 「教育の演出」明治図書 1963  
 「教育現場ノート」明治図書 1963  
 「私の教師論」麦書房 1963  
 「島小物語」麦書房 1964  
 「授業の展開」国土社 1964(1992, 2006 再版 国土社)  
 「一つの教師論」国土社 1965  
 「可能性に生きる」文藝春秋新社 1965  
 「現代教育批判」国土社 1966  
 「教育と人間」国土社 1967  
 「島小で芽をふく子ども」解説 明治図書 1967  
 「現代の女教師 全 6 巻」編 明治図書 1967～69  
 「校長の良心」編 明治図書 1968  
 「教師の実践とは何か」国土社 1968  
 「教育学のすすめ」筑摩書房 1969  
 「わたしの授業観」明治図書 1969  
 「風と川と子どもの歌一境小・島小合唱集レコード」筑摩書房 1970  
 「君の可能性」筑摩書房 1970  
 「教授学研究 全 10 冊 1～10」共編 国土社 1970～80  
 「教師が教師になるとき」編 国土社 1972  
 「開く」全 30 号一個人雑誌 共編 明治図書 1972～82

- 「写真集 いのち、この美しきもの」川島浩撮影 筑摩書房 1974  
「境小の教師」編 明治図書 1974  
「授業は教師がつくる」編 麦書房 1975  
「授業をつくる仕事」一莖書房 1975  
「授業と教材解釈」一莖書房 1975(1995再版 国土社)  
「教師の資質をつくるために一教授学ゼミの記録」編 国土社 1975  
「斎藤喜博対話集—この一つのこと」一莖書房 1975  
「写真集 斎藤喜博の仕事」川島浩撮影 国土社 1976  
「授業の可能性」一莖書房 1976  
「授業小言」明治図書 1976  
「教授学に学ぶ」編 明治図書 1977  
「わたしの授業 第1集」一莖書房 1977  
「わたしの授業 第2集」一莖書房 1977  
「わたしの授業 第3集」一莖書房 1977  
「介入授業の記録 上」一莖書房 1977  
「介入授業の記録 中」一莖書房 1977  
「介入授業の記録 下」一莖書房 1978  
「続介入授業の記録」一莖書房 1978  
「わたしの授業 第4集」一莖書房 1978  
「わたしの授業 第5集」一莖書房 1979  
「続々介入授業の記録」一莖書房 1979  
「子どもの四季合唱曲集」共著 斎藤作詞・近藤幹雄作曲 一莖書房 1979  
「教師の技術と思想を学ぶ」編 明治図書 1979  
「大空の歌」筑摩書房 1979  
「人と自然と—わが庭の記」一莖書房 1980  
「一つのこと 合唱曲集」編・作詞 丸山亜季他作曲 一莖書房 1980  
「授業の解釈と批評」国土社 1980  
「第Ⅱ期教授学研究 全4巻」共編 国土社 1981~84  
「わたしの授業 第6集」一莖書房 1982  
「子どもの世界だ—オペレッタ合唱曲集」共著 斎藤他作詞 近藤幹雄作曲 国土社 1987  
「子どもの歌と表現—境小・島小合唱集CD付」総指揮・解説 一莖書房 1995

## (2) 斎藤喜博本人による研究誌掲載文献 (除単行本)

### ① 「事実と創造」一莖書房 掲載文献

- 「授業の面白さ楽しさ」 1号 1981.6  
「形にして生み出す授業」 2号 1981.7  
「寂かな授業」 3号 1981.8  
「子どもから学ぶ」 4号 1981.9  
「オペレッタ台本 子どもの世界だ」 5号 1981.10  
「学校の組織と機能」 6号 1981.11  
「子どもの可能性(1)~(3)」 8~10号 1982.1~3  
「学生との対話(1)~(3)」 11~13号 1982.4~6  
「教育における技術と技能(1)~(3)」 14~16号 1982.7~9  
「教育への賛歌(1)~(4)」 17~20号 1982.10~83.1  
「「見える」ということ (上) (下)」 21~22号 1983.2~3  
「授業の本質(1)~(4)」 23~26号 1983.4~7

- 「病みて人々に」  
 「介入授業について (1)～(3) 27～29号 1983.8～10  
 「模擬授業の分析と討議(1)～(4)」 30～33号 1983.11～84.2  
 「子どもの事実立って(1)～(5)」 34～38号 1984.3～7  
 「「閑かさや・」の模擬授業(1)～(4)」 39～42号 1984.8～11  
 「最後の授業」の検討 43号 1984.12  
 「はな」の授業 44号 1985.1  
 「大造じいさんとがん」の授業 45号 1985.2  
 「あめだま」の授業とその検討 46号 1985.3  
 「コマ」の組織学習(1)～(4)」 47～50号 1985.4～7  
 「講演 子どもの可能性(1)～(4)」 斎藤喜博 170～173号 1995.7～10

## ②「事実と創造」以外の研究誌掲載文献

- 「共同研究・農村の教育計画」(実践記録・斎藤喜博「心の窓を開いて」、実態調査・大田堯「幻想ととりくむ教育」) 教育 1953.2  
 「今日の教師と授業」 教育 1966.11

## (3) 本人以外による斎藤喜博関連単行本

- 「斎藤喜博における『政治』と『教育』—無援の前線」 村田栄一著 社会評論社 1972  
 「斎藤喜博の短歌と人間」 氷上正著 国土社 1974  
 「斎藤喜博の体育授業の論理—私の体育授業から」 小林篤著 一莖書房 1978  
 「斎藤喜博と美術教育」 上野省策編・解説 一莖書房 1984 (1995再版)  
 「斎藤喜博の世界」 松本陽一・高橋嘉昭編 一莖書房 1985  
 「斎藤喜博と合唱の創造」 根田光悦著 一莖書房 1986  
 「斎藤喜博」 現代国語教育論集成編集委員会編 明治図書 1987  
 「斎藤喜博の教育美学」 笹本正樹著 杉山書店 1987  
 「斎藤喜博抄」 武田常夫著 筑摩書房 1989  
 「斎藤喜博研究—ケノクニ共同研究」 ケノクニ発行所 1990  
 「斎藤喜博研究」 第1号～第10号 北海道教授学研究会・笠原肇編 童書房 1990～95  
 「評伝 斎藤喜博—生き方と仕事」 笠原肇著 一莖書房 1991  
 「林竹二・斎藤喜博に学んで」 安里盛市 一莖書房 1992  
 「斎藤喜博の仕事と夢」 本間明信著 明治図書 1994  
 「斎藤喜博 国語の授業小事典」 笠原肇著 一莖書房 1994  
 「喜博と文明」 堀江厚一著 石川書房 1995  
 「斎藤喜博 教師の実践小事典」 笠原肇著 一莖書房 1996  
 「斎藤喜博 人と仕事」 横須賀薫著 国土社 1997  
 「斎藤喜博 学校づくり小事典」 笠原肇著 一莖書房 1998  
 「第8回企画展図録 土屋文明と斎藤喜博」 群馬県立土屋文明記念文学館 1999  
 「斎藤喜博—その体育指導を中心に」 小林篤著 一莖書房 2000  
 「私の校長奮戦記 斎藤喜博に魅せられて」 山内宣治 一莖書房 2000  
 「歌人 斎藤喜博」 監物昌美著 一莖書房 2003  
 「わたしの授業づくりの旅—斎藤喜博に学びながら」 西江重勝著 一莖書房 2003  
 「斎藤喜博新考」 広川和市著 信山社 2003  
 「いま問い直す斎藤喜博の授業論」 井上光洋・北川金秀編 一莖書房 2004  
 「斎藤喜博物語」 小笠原治嘉 一莖書房 2006

#### (4) 本人以外による斎藤喜博関連文献(除単行本)

##### ①「事実と創造」一莖書房 掲載文献

「斎藤喜博の教育用語①～⑭」松本陽一 1～17号 1981.6～82.10

「弔辞」横須賀薫 5号 1981.10

「斎藤喜博先生追悼号編集にあたって」6号 1981.11

「斎藤先生から学んだこと」吉田章宏・木山正規・小林一之・山本文郎・井口美智子・秋本正保・岡芹忍 6号

「玉村のお宅で教えられたこと」根田幸悦・斎宮久子・今井房子・斎藤利春・竹内暁雄・小松田克彦・露木和男・有賀政夫・石原進・いさ子 6号

「自然への目を開かれる」長谷川和子・原田直示・馬場信房・岡本岱 6号

「公開研究校の教師として」矢鋪義金・山本建明・内海輝平・堀江優・松本香代子・小西市太郎・賀谷正文・小畑公志郎 6号

「先生の実践や著作にふれて」田中寛・安里盛市・山内宣治・越川栄子・梶山正人・大塚敬三 6号

「夏の大会や冬の大会で」望月辰夫・今吉愛和・西江重勝・池亀正夫 6号

「公開研究会に学んで」高橋一郎・有田誠一・布目博久 6号

「それぞれの心の中で」甲野恵美・服部五郎・鬼頭三平・津山隆雄・福田鋭太・剣持留雄・金子広志・鈴木晃・竹内勝 6号

「大学の授業を受けて」守谷弘枝・三塚寿恵・宮本成子・高内彩知子・森田崇子 6号

「オペレッタ「子供の世界だ」を終えて」近藤幹雄 7号 1981.12

「<生>の切実な表現—斎藤喜博の歌」吉田漱 7号 1981.12

「斎藤先生の思い出」千田みどり 事実と創造 9号 1982.2

「斎藤喜博の遺産をどう継承し、発展させるか—第2回公開研究会を終えて」—「表現と子ども」斎藤征夫—「子どもがたのしみを表現するとき」箱石泰和—「美術の教師を育てる、斎藤先生の方法」山本文郎) 11号 1982.4

「詩人・斎藤喜博の眼光」笹本正樹 12号 1982.5

「木下竹次と斎藤喜博」小林篤 事実と創造 12号 1982.5

「私の学んだ「斎藤喜博」」佐藤すみえ 14号 1982.7

「斎藤先生と因島」横田徳造 14号 1982.7

「斎藤先生は、いま」鳩本光子 16号 1982.9

「斎藤喜博先生から学んだ発声」岸みね子 18号 1982.11

「斎藤文代氏の逝去を悼む」(弔辞)松本陽一、吉田静江、(追悼文)武田常夫 18号 1982.11

「夢と斎藤喜博先生」加藤裕子 21号 1983.2

「斎藤喜博の学校づくりに学ぶ」佐藤次郎、小林一之、花島福太郎、山口博人、前田秋信 22号 1983.3

「斎藤先生に学んで」刑光百合子 23号 1983.4

「学校づくりの追求」横須賀薫 24号 1983.5

「教授学ゼミの可能性を求めて」箱石泰和 26号 1983.7

「斎藤先生との出会い」江部満 27号 1983.8

「教育内容としての斎藤喜博と研究対象としての斎藤喜博」広川和市 29号 1983.10

「斎藤先生のきびしさ」井上啓子 30号 1983.11

「斎藤喜博の生きざま、死にざま」(追悼文)笠原肇 32号 1984.1

「授業学研究の会から学ぶもの」正木忠 33号 1984.2

「斎藤喜博の短歌から学ぶもの—その私的な回想から」木山正規 33号 1984.2

「斎藤先生と二つのこと」安里盛市 33号 1984.2

「斎藤先生のこと」内川富美子 36号 1984.5

「人間・斎藤喜博を語る」川島環・大槻志津江・岸みね子・井上勝代・柄内礼子・野村新 37号 1984.6

「教授学を考える」横須賀薫 44号 1985.1

- 「教授学とは何か」及川勝 44号 1985.1  
 「斎藤喜博「ふるさと」授業から学ぶもの」松平信久 48号 1985.5  
 「斎藤先生の音楽劇指導」梶山正人 57号 1986.2  
 「教授学研究の会」留別の講演—林竹二先生のこと」松本陽一 65号 1986.10  
 「斎藤喜博の言う「可能性」北川金秀 69号 1987.2  
 「斎藤喜博の授業の特質」落合幸子 73号 1987.6  
 「斎藤喜博の教育美学」堀江厚一 75号 1987.8  
 「斎藤喜博先生の言葉」馬場信房 80号 1988.1  
 「私の研究—斎藤喜博の詩の授業の分析」落合幸子 88号 1988.9  
 「斎藤先生ありがとう」伊藤喜美江 93号 1989.2  
 「斎藤先生に学ぶ—「表現と人生」に」赤沢潔 103号 1989.12  
 「選歌と歌会の教育思想」横須賀薫 104,109号 1990.1,1990.6  
 「思い出の中の先生」千田みどり 109号 1990.6  
 「短歌批評の用語・教育の用語」松本陽一 110号 1990.7  
 「斎藤喜博氏の「おしらべ」と塚本実践を結ぶもの」佐久間勝彦 113号 1990.10  
 「斎藤喜博論—小林勇と山本周五郎の比較に於いて」鈴木惇 114号 1990.11  
 「斎藤教授学への道—介入授業に学ぶ」岩崎元 114号 1990.11  
 「「あとかくしの雪」の未発表授業」斎藤喜博・解説/松本陽一 125号 1991.10  
 「今学び直す斎藤喜博の仕事」河野恵子 126号 1991.11  
 「特集・斎藤喜博像に迫る—没後10年を記念して」人間斎藤喜博(野村新)、細い道とかしの木と(岡芹忍)、  
 火鉢の辺で(川嶋環)、やさしさをきびしさに(大槻志津江)一つ一つつみ重ねて(岸みね子) 127号 1991.12  
 「斎藤喜博の子どもの把握」松平信久 128号 1992.1  
 「斎藤喜博の授業論の背景と性格」横須賀薫 129号 1992.2  
 「斎藤喜博座談(1)—第3日曜の会補遺」構成・松本陽一 130巻 1992.3  
 「斎藤喜博と教授学(1)」箱石泰和 131号 1992.4  
 「斎藤喜博の音楽指導」梶山正人 132号 1992.5  
 「斎藤喜博座談(2)—第3日曜の会補遺」構成 松本陽一 135号 1992.8  
 「斎藤喜博の子どもの把握(2)」松平信久 138号 1992.11  
 「斎藤喜博における教授学—人称おける授業記録の意味を中心に」横須賀薫 140号 1993.1  
 「斎藤喜博の湊川高校における音楽の授業」福島敬三 140号 1993.1  
 「斎藤喜博と教授学(4)」146号 1993.7 イメージ(その2)(箱石泰和)、カザルスの音楽にかける解釈と表現(近藤幹雄)、授業分析の試み(笠原肇)  
 「特集 斎藤喜博研究の課題と展望」150巻 1993.11 — 「典型」創造と「典型」研究をめぐって(横須賀薫)、  
 斎藤の教師としての成長の軌跡のあとづけ(松平信久)、子どもの世界をつくる(野村新)、わたしの課題(佐久間勝彦)、斎藤喜博の音楽指導(梶山正人) 私の斎藤喜博研究(大沼徹)  
 「遺産への迫り方として(斎藤喜博「国語の授業小事典」を読む)」横須賀薫、渡辺皓介、東谷一彦、片桐賢二、  
 宮崎清孝 160号 1994.9  
 「斎藤喜博研究の展望(2)—初任期・青年期教師時代の斎藤喜博のあゆみ」松平信久 171号 1995.8  
 「斎藤喜博と私(1)—人間の魅力に魅かれて」金子緯一郎 176号 1996.1  
 「斎藤喜博と私(2)—学校全体が燃えていたもんね」岸みね子 177号 1996.2  
 「新しい教育の時代に斎藤喜博を考える」波多野完治 177号 1996.2  
 「喜博の発見(1)—欲をもつということ」広川和希 177号 1996.2  
 「喜博の発見(2)—無限の可能性を引き出すこと」馬場信房 178号 1996.3  
 「喜博と私(3)—謙虚であれ」赤坂里子 178号 1996.3  
 「喜博と私(4)—事実を見ぬき創造すること」高橋元彦 179号 1996.4  
 「斎藤喜博と私(5)—憧れから畏敬の念に」青山園江 180号 1996.5

- 「斎藤喜博と私(6)一心を育てる」井上勝代 181号 1996.6  
「斎藤喜博と私(7)―私の中の二つのお庭」田中せつ 182号 1996.7  
「斎藤喜博と私(8)―教育の仕事の楽しさ」小林可也 183号 1996.8  
「斎藤喜博と私(9)―その時代を読み仕事を構築」越川栄子 184号 1996.9  
「いま、なぜ「斎藤喜博」か」横須賀薫 184号 1996.9  
「生きてゆく歌―斎藤喜博における」堀江厚一 185号 1996.10  
「斎藤喜博と私(10)―自問の細い道を」大槻志津江 185号 1996.10  
「斎藤喜博と私(11)―私が教えていただいたこと」小松田克彦 186号 1996.11  
「斎藤喜博と私(12)―対話の世界に出会う」田中順子 187号 1996.12  
「『斎藤喜博の教室愛』を実践して」矢野しげ子 189号 1997.2  
「組合員としての斎藤喜博」越知和彦 190号 1997.3  
「斎藤喜博の芸術論と哲学的解釈学の接点」大沼徹 199号 1997.12  
「斎藤喜博の合唱における呼吸・発声の指導」梶山正人 223号 1999.12  
「CD 斎藤喜博の合唱における呼吸・発声指導の実際―斎藤喜博の声かけ抜粋レポート」石原順子 227号 2000.4  
「斎藤喜博と徳田白揚」後藤清春 233号 2000.10  
「異端の歌人、斎藤喜博」笠原肇 234号 2000.11  
「表現を開く教育実践その1―斎藤喜博先生との出会い」濱田純 243号 2001.8  
「斎藤喜博生誕90年没後20年記念の集まりに参加して思うこと」笠原肇 246号 2001.11  
「実践者 斎藤喜博」根田幸悦 248号 2002.1  
「斎藤喜博の人と仕事(1)」山内宣治 248号 2002.2  
「斎藤喜博の人と仕事(2)」山内宣治 249号 2002.3  
「『学校づくりの記』斎藤喜博著再読(1)『渡し舟のある村から』」根田幸悦 269号 2003.10  
「『斎藤喜博データベース』をつくる提案」小林篤 270号 2003.11  
「『学校づくりの記』斎藤喜博著再読(2)『打った手から』」根田幸悦 273号 2004.2  
「『斎藤教授学講座』より『人間と教育の可能性―斎藤喜博が求めたものを追いつけて 後藤清春著』」小笠原治嘉 272号 2004.2  
「『学校づくりの記』斎藤喜博著再読(3)」根田幸悦 273号 2004.4  
「『学校づくりの記』斎藤喜博著再読(4)」根田幸悦 277号 2004.6  
「『学校づくりの記』斎藤喜博著再読(5)」根田幸悦 280号 2004.9  
「『学校づくりの記』斎藤喜博著再読(6)」根田幸悦 281号 2004.10  
「『学校づくりの記』斎藤喜博著再読(7)」根田幸悦 285号 2005.2  
「斎藤先生に伝えたいこと(1)(2)(3)(4)」小笠原治嘉 289~291, 293号 2005.6~2006.8, 2005.10  
「キーラン・イーガンの授業論―斎藤教授学への一照射(1)~(18)」宮崎清孝 297~320号 2006.2~2008.1

## ②「事実と創造」以外の研究誌掲載文献

- 「共同研究 学校管理と校長のリーダーシップをめぐって―斎藤喜博著『学校づくりの記』をめぐって」蠟山政道、澤田慶輔、関野豊三、伊藤秀夫、三井為友 教育技術 1959.12  
「斎藤喜博になにを学ぶか」戸石泰一 教育 1972.4  
「斎藤喜博はなぜ「介入」するか」横須賀薫 教授学研究 9 1978  
「『斎藤喜博教授学』のひとつの解釈」野村新 教授学研究 9 1978  
「『斎藤喜博教授学』のひとつの解釈(続)」野村新 同上 10 1979  
「教育実践史上における斎藤喜博とその仕事」横須賀薫 総合教育技術 1981.10  
「実践の人―斎藤喜博」上野省策 総合教育技術 1981.10  
「斎藤喜博とわたし」土屋文明 総合教育技術 1981.10  
「斎藤喜博覚え書き―斎藤先生を追悼する」武田常夫 第Ⅱ期 授業学研究 2 1982  
「『みる』と『みえる』の創造―斎藤喜博の自我と世界に学ぶ」吉田章宏 第Ⅱ期 授業学研究 2 1982



- 「斎藤喜博氏を悼む」波多野完治 開く 30 集 1982. 8  
 「回想された斎藤喜博」坂元秋子 首都大学心理教育学科卒業論文 2006

### (5) 島小・境小・玉村小と島村・玉村町等地域社会

関連文献 (除斎藤喜博本人執筆文献)

- 「島小学校百年史」島小百年史編集委員会・開校百年記念事業委員会編集発行実行 1972  
 「島小研究報告」復刻版 横須賀薫監修 大空社 1995 一原書全 22 集は 1955 年第 1 巻から境島小学校編著者 群馬県教員組合発行 1955～60  
 第 1 巻 第 1 集～第 5 集 1953～55  
 第 2 巻 第 6 集～第 9 集 1955  
 第 3 巻 第 10 集～第 15 集 1955～58  
 第 4 巻 第 16 集～第 20 集 1958～59  
 第 5 巻 第 21 集～第 22 集 1960  
 第 6 巻 島小 11 年史 金子緯一郎編 麦書房 1966  
 別 巻 解説・随想・論説  
 「島小で芽をふく子ども」赤坂里子著 明治図書 1967  
 「未来につながる教室―群馬県島小学校」『厳粛な縄張り (下)』大江健三郎著 講談社文芸文庫  
 「利根川と蚕の村」金子緯一郎著 上毛新聞社 1979  
 「島村郷土誌」田島瑞穂編 島村役場 1910  
 「日本基督教団島村教会百年史」日本基督教団島村教会(私家版)1987  
 「明治キリスト教会形成の社会史」森岡清美 東大出版会 2005  
 「島村蚕種業者の洋行日記」湯浅正彦編 境町史資料書第 4 集(歴史編) 1988  
 「蚕人殿上巻」丸山義二著 全国養蚕農業協同組合連合会編 1972(P5～49 田島弥平)  
 「我輩は蚕である」田島弥太郎著 日本絹の里発行 2001(非売品)  
 「島村郷土史年表」栗原知彦編(境島村公民館作成 2005)(非売品)  
 「修羅の川」関口美沙江 光文社 2003  
 「境町史」第 1 巻 自然編 1991 第 2 巻 民族編 1995、第 3 巻 歴史編上 1996 第 4 巻 歴史編下 1997  
 別巻 目で見える境町の歩み  
 「境風土記」しの木弘明著 明治百年記念出版境風土記編纂委員会 境町地方史研究会発行 1969  
 「境町の動向」2002 年版 境町企画調査課編 境町役場・  
 「玉村小学校百八年史」同小創立百八年記念実行委員会編集 群馬県佐波郡玉村町玉村小学校 1982  
 「草原」第 1 号～第 10 号 1935～43 玉村尋常高等小学校、(復刻)宮城教育大学教育臨床総合研究センター2006  
 「幻想の島小」高橋金三郎 事実と創造 12 号 1982. 5  
 「境小での表現活動」大槻志津江 事実と創造 16 号 1982. 9  
 「玉村に学んで」松本陽一 事実と創造 25 号 1983. 6  
 「島小・境小教育の源流」塚本幸男 事実と創造 30 号 1983. 11  
 「島小・境小のフィルムを見て」岡芹忍 事実と創造 31 号 1983. 12 島小での実践を語る(武田常夫・久保田和子・川島環・岡芹忍他)  
 「(1) 島小での教師としての成長」事実と創造 33 号 1984. 2  
 「(2) 島小での授業と教材解釈」事実と創造 38 号 1984. 7  
 「島小における学習形態論の展開」事実と創造 箱石泰和 36 号 1984. 5  
 「境小での歌唱教材の選択」岸みね子 事実と創造 39 号 1984. 8  
 「「利根川」を通しての学級づくり」浜田純 事実と創造 39 号 1984. 8  
 「忘れ得ぬ子らのこと」大槻志津江 事実と創造 49 号 1985. 6  
 「境小こぼれ話(1)～(12)」大槻志津江・柴田みね子・青山園江・田中セツ 事実と創造 85～96 号 1988. 6～89. 5  
 「島小での叱らればなし」川島環 事実と創造 98～111 号 1989. 7～1990. 8

- 「境小で見た子どもの美しさ」大槻志津江 事実と創造 104号 1990.1  
「島小研究報告・島小公開研究会総目次」井上光洋 149号 1993.10  
「島小 赤坂学級文集（解説）」横須賀薫 事実と創造 159号 1994.8  
「教授学原点としての島小の授業」横須賀薫 事実と創造 164号 1995.1  
「斎藤喜博・文「未来誕生」の位置」－「島小教育」閉幕40周年によせて」広川和子 事実と創造 263号 2003.4  
「斎藤喜博研究の展望(1)－「島小研究報告」の復刻と島小研究のこれまで」169号 1995.6  
「資料 第7回島小公開研究会 d 第1日日夜の座談会－10秒質問 30秒回答」斎藤喜博ほか 175号 1995.12  
「斎藤喜博島小学校長就任50周年によせて」廣川和子 256号 2002.9  
「斎藤喜博文「未来誕生」の位置－島小教育閉幕40周年によせて」廣川和子 263号 2003.4

## (6) 斎藤喜博の影響を受けた人々の文献（但し斎藤喜博自身に直接関わるものは除く）

### ①単行本

- 「文学の授業」武田常夫著 明治図書 1964  
「文学の授業でなにを教えるのか」武田常夫著 明治図書 1966  
「私の作家論」武田常夫著 明治図書 1969  
「真の授業者をめざして」武田常夫著 国土社 1971  
「詩の授業」武田常夫著 明治図書 1971  
「イメージを育てる文学の授業」武田常夫著 明治図書 1973  
「授業の発見」武田常夫著 一莖書房 1976  
「授業者としての成長」武田常夫著 明治図書 1977  
「授業の中の子ども」武田常夫著 明治図書 1980  
「合唱指導の原則」近藤幹雄著 明治図書 1982  
「文学と人生」武田常夫著 一莖書房 1983  
「授業に自信がありますか」武田常夫著 明治図書 1986  
「子どもが輝くとき－斎藤喜博の教育を受け継いで」小林可也著 一莖書房 1996  
「新米校長失敗物語－理想の教育を求めて」根田幸悦著 一莖書房 1999  
「いのち輝く子どもの歌－大田小学校の事実 CD2枚 解説：山口博人 コメント：近藤幹雄 一莖書房 2000  
「教室を輝かせた子どもたち」塚本幸男著 一莖書房 2002  
「大学づくりと教員養成教育」野村新著 一莖書房 2007  
「斎藤喜博先生に導かれて」根田幸悦著 一莖書房 2007

### ②「事実と創造」一莖書房 掲載文献

- 「私の学校づくり」菊池強 53号 1985.10  
「武田常夫先生を悼む」箱石泰和 68号 1987.1  
「追悼特集/武田常夫先生をしのぶ」70号 1987.3 弔辞：横須賀薫 以下大槻志津江・岸みね子・根田幸悦・川島浩・照屋美和子・栃内礼子・武田弘子・石沼徳郎  
「授業を創るために」武田常夫 72号 1987.5  
「教師教育において根源的なもの」横須賀薫 79号 1987.12  
「特集 教育の演出・授業の演出」笠原肇・浅野清・佐茂厚美・木村淑江・五十嵐輝男・河野政雄・今野雅喜・小笠原大樹・岩崎元・河田憲二・越知和彦・今井光裕 79号 1987.12  
「現在の私たちの課題をめぐって」横須賀薫 83号 1988.4  
「表現力養成の実践から」89号 1988.10  
「学校づくりをふりかえって」伊藤隆 94号 1989.3  
「先人に手を取って教えてもらうこと」広川和子 114号 1990.11  
「学校づくりあれこれ」伊藤隆 106号 1990.3

- 「鈴木惇の仕事と生涯」細川佳之 114号 1990.11  
 「上興部中学校と鈴木惇先生」河田憲二 114号 1990.11  
 「若い先生たちに託すもの」岡芹忍 116号 1991.1  
 「川島環先生の授業」森田崇子 116号 1991.1  
 「教育讃歌を讃える」馬場信房 116号 1991.1  
 「対談 個の確立を求めて」横須賀薫・川嶋環 119号 1991.4  
 「教授学研究の会と社会科授業」佐久間勝彦 120号 1991.5  
 「新任教頭の実践と教頭の仕事」翠誠治 123号 1991.8  
 「教育へのヒント」馬場信房 125号 1991.10  
 「私の学校づくり」河村文雄 137号 1992.10  
 「子どもを育てる校庭の樹木」角田武 137号 1992.10  
 特集「北海道室蘭清丘高校の実践」139号 1992.12 笠原肇：生きた学校の創造をめざして、斎藤裕之：実践  
 の事実、佐々木一：結果からの分析、岡野圭子：ありがとう、クラスの生徒たち  
 「自立への教育」馬場信房 140号 1993.1  
 「教育は闘いです」笠原肇 144号 1993.5  
 「補っておきたいこと」横須賀薫 144号 1993.5  
 「新任校長の記」151号 1993.12 学校づくり事始め(斎藤征夫)、半年の歩み(翠誠治)  
 「続 新任校長の記」翠誠治 156号 1994.5  
 「若き教師たちへ あこがれの授業を求めて」川嶋環 156号 1994.7  
 「教育を考える言葉」横須賀薫 159号 1994.8  
 「私の校長実践」渋谷栄一 159号 1994.8  
 「資料 島小赤坂学級文庫」159号 1994.8  
 「武田常夫氏の出発点—「二つの授業」島小研究報告 17  
 「学級づくりの記録」から」松本陽一 160号 1994.9  
 「声が投げかける問い—武田常夫の授業を聴く」宮崎清孝 162号 1994.11  
 「私の学校づくりの1年」山内宣治 165号 1995.2  
 「私の環境づくりの記」今吉愛和 168号 1995.5  
 「大槻志津江先生に聞く」小出哲也・地場由紀子 170号 1995.7  
 「対談 子どもを育てる美術の教育」鈴木五郎・西岡陽子 172号 1995.9  
 「二人の校長」米口高次・中村繁 179号 1996.4  
 「私の学校づくりの記(2)—命令や号令のない学校生活を」福島敬三 200号 1998.1  
 「校長の仕事—授業の力をつけるために」村上良三 202号 1998.3  
 「教師であった喜び」赤坂里子 206号 1998.7  
 「斎藤喜博の授業における「読み」の指導をめぐって(1)(2)」李恵媚 206~207号 1998.7~1998.8  
 「追悼 上野省策先生を送る」鈴木五郎「弔辞 森本仁平,上野浩道」216号 1999.5  
 「川嶋環先生の介入授業から学んだこと」稲垣景子 261号 2003.2  
 「教師の課題そして校長の課題①」田中憲夫 262号 2003.3  
 同②265号 2003.6 同③266号 2003.7 同④268号 2003.9  
 同⑤269号 2003.10 同⑥ 274号 2004.10  
 「大槻志津江先生に学ぶ」富山県大沢野町立大沢野小学校 — 心をひらいて取り組む子どもたち 山本文郎、  
 山下圭子、浜松繁、浅野真樹子、佐野貴志子 287号 2005.4  
 特集夏の会「高橋元彦先生に体育の授業での手入れの仕方を教わる会」295号 2005.12  
 「表現について考えること—秋田大附属小での表現を事由とした5年間の歩みの中から(1)~(4)」大槻志津江  
 306~310 2006.11~2007.3  
 「沖縄・宇栄原小学校の学校づくりに学ぶ」狩野浩二 315号 2007.8.

③「教育学研究」日本教育学会 掲載文献

特集 教育実践と教育学 53巻3号 P.33 1986.9 「教科教育学研究に即して」三宅信一・駒林邦男

3. 主な文献解題—斎藤喜博入門書 10冊

(1) 「少年のころの記憶・可能性に生きる」(斎藤喜博全集第一期 12巻)

少年時代、群馬師範、玉村小、芝根小、玉村中、県教組文化部長、島小・境東小・境小の各校長時代までを著者自身が振り返る。公立学校退職までを概観するのに適当。必読入門書の一冊。

(2) 「学校づくりの記」(斎藤喜博全集 11巻)

41歳で島小校長に就任した斎藤喜博が、独創的な学校改革を軌道に乗せるまでの経緯を書いた本。喜博の学校経営手法が生き生きと描かれている。彼の代表作の一冊。

(3) 「授業」「授業入門」「授業の展開」(斎藤喜博全集第4・5・6巻) — 3冊とも2006年国土社から再版

授業力で名人の域を極めた喜博は、所謂授業三部作で実践の裏づけがある授業論を展開し、彼の影響力を全国の教師の間に広げることになった。彼の入門書としてはもとより授業力向上を志す教師にとって必読の本。

(4) 「歌集・年譜」(斎藤喜博全集 15-2)

自分の短歌を詠まずに仕事、考え方は理解できぬが喜博の口癖。年譜から彼が全国の学校を訪問指導した足跡と過密日程が分かる。

(5) 写真集「未来誕生」文・斎藤喜博 撮影・川島浩

島小学校の授業場面の生徒と教師、特に生徒の表情に焦点を当てた写真集。喜博の文も読みやすい。一莖書房の復刻版は立派。

(6) 「斎藤喜博 人と仕事」(横須賀薫著)

筆者は大学人として斎藤喜博を最もよく理解し共に活動した。本書は理論と実践を踏まえた喜博紹介書として傑出している。

(7) 「斎藤喜博抄」(武田常夫著)

喜博から直接薫陶を受けた教員の中で、喜博後継者として筆頭に挙げられる筆者が喜博像を紹介する随筆集。豊富なエピソードから喜博の人間と考え方が理解できる。

(8) 「斎藤喜博の世界」(松本陽一・高橋嘉昭編)

斎藤喜博の数多くの著書から選んだ重要な文章・用語等を内容、執筆年代別に分類整理した本。索引として極めて有用。

(9) 島小研究報告 全6巻と別巻解説 復刻版 (横須賀薫監修)

島小の先生方の実践記録である本巻の内容と意義に加えて、別巻で教育実践史上における島小の意義、島小11年史の内容、島小教育と喜博他からなる極めて有用な資料。島小教師団の実践を知ることができる。

(10)「事実と創造」一莖書房

1981.6 発刊から 2007.12. まで 319 号を刊行し、現在も刊行を続けている月刊誌。喜博とその同志・後継者・賛同者が主な執筆者。喜博理解と教育実践事例の宝庫。最近は主に斎藤の授業論の系譜に属する全国各地の授業研究会の案内と実践事例が多く紹介されている。一莖書房の経営者は、斎藤喜博の長女、斎藤草子氏。出版会の不況と闘いながら、父喜博の仕事を後世に伝える仕事に打ちこんでいる。

#### 4. 学生の斎藤喜博観

私は 2006 年度前期、私の教職総合ゼミで「斎藤の信仰者になるな。なれば教祖を絶対視する宗教人になる」と学生に言いながら、斎藤本人と関係者が書いた文献を輪読した。その結果、斎藤の実践とそれを踏まえた考え方は今日の学生にも大きな影響を与えることを見出した。終わりにあたりゼミ終了後彼らが書いたレポートの抜粋（著者作成）を紹介し、この研究ノートを締めくくることにする。

学生 A：1 年間の学習の中で最も印象に残っているものは、島村を訪ねたときに、斎藤喜博氏の実践を実際に生徒として体験した S さんと M さんがおっしゃっていた「自信を持たせてくれた」という言葉である……。この「自信を持たせる」という行為は、生徒や教師に対してだけでなく、家庭や地域にも向けられた実践であった……。これから教育現場に飛び込んでいく者として、また斎藤喜博氏を学んだ者として、草の根レベルからの教育改革を実践していきたいと思う。

学生 B：まず考えさせられたことは、喜博が自分を「斎藤さん」と呼ばせていたことである……。生徒だけでなく、先輩教師、保護者、世間一般からも「先生」と呼ばれ、気づかぬうちに自分が「特別な人間」という感覚が芽生えることがありうる。このリスクを回避するには、必ずしも「さん」づけの実現を待つだけでなく、喜博のように常に実践—即ち常に研究と勉強—にこだわっていくほかない。この心構えがあれば、「特別な人間」という感覚が芽生える余地はないのではなかろうか。

学生 C：斎藤氏が成功した理由は、「自ら動く」にあった。自分自身が動いて見せたのである。だから、生徒の心だけでなく、若い先生、保護者、みんなの心をひきつけたのであろう。夜職場でグループのリーダーをしている私の経験から「学校づくりの記」は組織の上に立つ人間のバイブルとして使えると思う。斎藤氏の手法から学んだことは非常に多い。しかし時には両刃の剣になるかもしれない。事実一部に根強い反対も続いた。彼から学んだ点は使うが、使い方、使う時期などはしっかりと見極めていきたいと思う。

学生 D：「発言することによって相手を傷つけ、自分も傷つけることが多いのだが、その苦しみや悲

しみも覚悟の上で発言しようとする勇氣は、やはり職場全体をよくし、自分も良くしようとする意識以外にはない」<sup>5)</sup>このような職場を島小学校で創りあげるまでの齋藤氏の苦労は並み大抵のことではなかったと思われる。自他を高めるために叩き合える関係を構築することの大切さは分かっているながらも躊躇しがちなことである。

## 注

- 1) 国土社が2006年に「授業」、「授業入門」、「授業の展開」を再版した。
- 2) 「いま、なぜ齋藤喜博か」横須賀薫 「事実と創造」184号 1996.9
- 3) 横須賀薫、笠原肇、廣川和市、監物昌美、松本陽一、高橋義昭、上野省策、野村新他多数
- 4) 単行本以外の文献リストはもっぱら「事実と創造」から作成した。紙面の制約、筆者の時間と努力不足も原因。今後より広く資料を求め良い文献リストを目指したい。
- 5) 「学校づくりの記」 p.179

## 謝辞

終わりにあたり、終始有益な指摘と助言を頂いた日本教育大学院大学の藤永保学長と林義樹教授、そして文献資料を提供していただいた一莖書房の齋藤草子氏に心よりお礼を申し上げるとともに、レポート要旨の掲載を許諾した本学の院生、吉田徹、中村勇樹、名越寛、白鳥匡宏の諸氏に感謝の意を表したい。

---

Research Note

## A Bibliography of Saito Kihaku and an Introduction to His Basic Papers

Kubota, Takeshi

---

This paper consists of four parts. First, it will start with the purpose of creating a bibliography of Saito Kihaku, one of the most distinguished Japanese educators in the second half of the 20<sup>th</sup> century. Second, a bibliography compiled by the author will follow. Third, ten basic books by Saito are introduced. Fourth, short comments on Saito are expressed by four graduate students, who had never previously heard of him.

Saito Kihaku(1911~81) became principal of Shima Primary School at a rural village in Gunma Prefecture in 1952 and worked there for eleven years. During this period, he drastically improved the teachers' mind and skills and the students' motivation to study and scholastic achievement. As a result, Saito and his school became so famous that more than ten thousand visitors of various occupations besides teachers visited his school from all over the country. Accordingly, he became a prominent educator and wrote a lot of books and attracted many supporters. However, twenty seven years after his death, most young teachers and students do not know the legacy of Saito. This is the main reason why the author began to compile a bibliography of Saito's works.

**Key words:** Saito Kihaku, Bibliography, Shima, Tamamura & Sakai Primary School, Sakaishimamura, Isezaki-city

---